

## 令和5年度 第2回京丹後市スポーツ推進審議会会議録（公開用）

- 1 開催日時 令和5年7月25日（火） 19時30分～21時00分
- 2 開催場所 京丹後市大宮庁舎4階 第2,3会議室
- 3 出席者 小谷順一委員（会長）、板倉俊明委員（副会長）、小石原正志委員、田崎仁志委員、足立俊治委員、吉岡美乃里委員、川口勝彦委員、安井國土委員、谷口正郎委員、杉本智委員、藤原英一委員

事務局 教育長 松本明彦  
教育次長 引野雅文  
生涯学習課 安達純、蒲田真穂、下戸裕子

- 4 議題及び会議の公開又は非公開の別 【公開】

- 5 傍聴人の数 なし

- 6 発言等の内容（要旨）

- 1 開会
- 2 あいさつ

<事務局>

それでは、皆様お待たせをいたしました。皆さん、こんばんは。本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。

本日、進行を務めさせていただきます生涯学習課の安達と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員様の出席、欠席についてご連絡させていただきます。小森委員様より、欠席のご連絡をいただいております。以上になります。

それでは、ただいまから第2回京丹後市スポーツ推進審議会を始めさせていただきますと思います。

最初に会議の成立につきまして、事務局よりご報告させていただきます。京丹後市スポーツ推進審議会条例第5条によりまして、本審議会の会議の開催につきましては、委員の過半数の出席が必要でございます。

本日委員12名中の11名のご出席がございますので、会議が成立しますことをご報告させていただきます。

それでは開会にあたり、小谷会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

#### <小谷会長>

こんばんは。第2回の推進会議ということでお集まりいただきありがとうございます。

前回第1回の推進会議で推進計画の見直しということで、皆さんから意見を多くいただいて、今回もまた多くの意見をいただいて、計画の見直しの方がスムーズに進むようによろしくお願いいたしますと思います。今日は本当にご苦労さんです。

#### <事務局>

ありがとうございました。それでは続きまして松本教育長がご挨拶申し上げます。

#### <松本教育長>

皆さん、こんばんは。本当にお疲れのところご出席いただき本当にありがとうございます。

このスポーツ推進審議会ですけれども、前回、先ほど小谷会長からありましたように、多くの意見をいただきましたので、それを踏まえて今日資料等も準備させていただいておりますので、また忌憚のないご意見をいただいたらというふうに思っているところでございます。

さてこのスポーツに関係しまして、先週は、7月20日に小中高校生の中でこの夏を中心に、全国大会、世界大会へ出場する選手の激励会を実施したわけですが、小学生は1人ですが、あと中高生で対象となるのが47名という本当に多くの子どもたちが、全国大会や世界大会に、この京丹後市出身の子どもたちが挑む夏ということで、本当にこれにおきましても、日頃からスポーツ関係団体の皆さんや指導者の皆さんに丁寧にご指導いただいている成果が、このような形で少しずつはっきりとし、見える形であらわれているのではないかなというふうに思っておりますし、今日明日配られるでありましょう、広報京丹後にもまたそうした選手の話も出ておりますので、見ていただけたらというふうに思っているところであります。

また次の日は、中学校の丹後ブロックの競技大会もございましたけれども、本当に暑い中、子どもたちは多くの応援者の中で生き生きと、活動、スポーツに取り組んでおりましたし、私は、はごろも陸上競技場のフィールドでやってたサッカーでありますとか、夢球場の野球なども参加させてもらいましたけど、本当に素晴らしい施設の中で、子どもたちが伸び伸びとやってる姿を見て、子どもたち、京丹後の子どもたちは、そういう施設面でも恵まれているなというのを感じさせていただいたところであります。

そうした子どもたちがスポーツに親しんで、大人になっても、よりスポーツに親しみながら続けていけるようなそういう環境が整ってくればというふうに思っておりますので、

そうした面も含めまして、推進計画の見直しについて、丁寧にご議論いただければというふうに思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございます。議事に入ります前に、今回2回目の会議ということになります。第1回目にご欠席でしたけれども、本日、新たな委員様ということで、藤原英一委員様にお越しいただいております。またよろしくお願いをいたします。

それでは、以降の議事につきましてでは、条例の規定に基づきまして、小谷会長にお世話になりたいと思います。よろしくお願いをいたします。

<小谷会長>

失礼します。それでは、まず議事録署名人を選出したいと思います。議事録署名人には川口委員さんにお世話になりたいと思います。川口委員さん、よろしくお願いします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

次第3. 協議事項につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

最初に（1）第2次京丹後市スポーツ推進計画の中間見直しについての①目標数値についての説明をお願いします。

### 3 協議事項

<事務局>

（1）第2次京丹後市スポーツ推進計画の見直しについて

①目標数値について

- ・第2次スポーツ推進計画実施概要（資料1）
- ・第2次スポーツ推進計画の評価・課題（資料2）
- ・京丹後市スポーツ推進計画 目標数値見直し(案)（資料3）

～事務局説明～

<小谷会長>

ただいまの説明についてご質問、ご意見はありませんか。はい。

<委員>

失礼します。前回ちょっと他の公務で欠席をさせてもらってる中での質問で、もしかしたら、もう協議されているかもわかりませんが、資料1の2枚目の2ページなんですけど、これは令和4年度の実施ですね。ここに小学校の夏休みプールというふうに下の方に赤で記載されているんですけど、確か、昨年7月初めに水不足で、夏休みのプールが市内全域で駄目になった記憶があるんですけど、プールは確かに7月に、それまでは授業ではや

ってましたので大丈夫かと思うんですけど、夏休みとここに書いてあると、正式なところはなかったのかなというふうに認識しているんですけど。

<事務局>

一応この実施概要につきましては、平成30年度から令和4年度分にはなっておるんですけど、ちょっとここ年度も入れてないので。去年は夏休みはプールはなかったというようなことで。はい、わかりました。

そちらの方ちょっと年度も入れさせていただいて、去年の夏休みプールはなしということできさせていただきたいと思います。

<委員>

いいですか、質問しても。資料3の1番の青少年のスポーツ教室の児童生徒参加率、35.4%ということは、これは目標でわかりませんが、以前の数値というものはどういう数値なのでしょう。これ上げておるのか、これを見ている限りでは、全生徒の小学中学校も入るんですよね、これ。このうちに、スポーツ教室に35.4%入ってほしいというふうに理解できますが、従来の数値とはどのようなものですか。

<事務局>

この括弧書きなんですけれども、これは、令和4年度の実績の数値で、目標数値ではないんです。まだ目標数値は設定はしてませんので、この令和4年度の実績数値をちょっとここに書かせていただいております。

<委員>

令和4年の実績数値ということは、これからの目標数値は、どうするんですか。

<事務局>

目標数値につきましては、今回この数値目標を、これ、例えば6つ全部設定するとしたときに、次回に目標数値の目標は設定させていただこうと思っております。

今回この6つで行くかどうかをちょっと議論していただけたらと思ひまして、目標数値はまだ入れていません。

<委員>

次回の会議でということですか。今年度の目標数値をするのに、何回会議をするかは知りませんが、1回目2回目をとばして、3回目4回目になってから目標数値を出してもしょうがないと違うんですか。

出すんだつたらもっと早くからその目標に向かって、こういう数値で頑張ろうとかね、

そういうのが本来の姿であると思うんですけども、違いますかね。

<事務局>

前回1回目の時に、この現行の方の1、2、3、4ですね、こちらの方はこれまでから数値目標として設定しておりましたので、これにつきましては、前回の資料の中に、目標数値も入れてあります。

例えば、先ほどの資料2の1ページ目につきましては、基本目標1のここに数値目標と書いてありまして、こちらは、すべて令和4年の目標値と、それから令和9年の目標値を設定してあります。

なので、現行の4つは設定はしてあるんですけども、今日、見直し案で2つ追加をさせていただきたいと思っております、その分については、まだ実績数値だけを今記載しております、目標はまだ設定をしていない状況です。

<委員>

ですから、今回せっかく、3回目4回目の会議ではなしに、今回のこの2回目の会議に議題として正式に出して討論するべきではないのでしょうか。無理なら、無理と言ってくださいよ。

私は、同じ先延ばしするんだったら、今するべきだと思いますが、時間がないのかあるのかわかりませんが。

<事務局>

次の会議でちょっと議論させてもらおうと思っていたものです。ちょっと今回つてなると、その目標数値をどういうふうに定めるかっていう、根拠のデータも持ち合わせてないということもありまして。

<委員>

そんなデータのないような会議していてもしょうがないでしょ。

<事務局>

目標数値というのは、次回の会議で検討させてもらおうと思っておりました。

<松本教育長>

目標数値にするかを新たに加えるかどうかを確認してからになるので、目標数値については、次回になるということでしたね。

<事務局>

そうです。今回のこの会議では、この右側の2番と4番っていうのを新たに付け加えるのがいいだろうと、この目標数値としてっていうのをちょっと提案をさしていただいて、皆様のご意見をいただきまして、これも加えようと全部で6つにしてはどうかということになりました後に、次の会議で事務局からこういった理由で、目標数値をこのように定めたいと、定めたほうがよからうという提案をさせていただこうというふうに思っておりました。

<委員>

今まで3番までの資料を説明して、それで次にこれを基に、こういうふうにし検討しましょうかという提案ならわかるんですけども、3番まで説明していて、何か意見ありませんかって言われたら、これはどうなってるんだと、こういう意見になってしまうんです。

<事務局>

すみません。少し説明の仕方が誤っておりました。

<委員>

この推進計画を作られる時にデータを取られてる、8ページかな、持っておられる方はそこには青少年のスポーツ協会の平成26年、27年、28年のトレンドがあります。これ青少年のスポーツ協会の方もそうなんですけど、この後、29、30とって、そして今度はコロナで、活動がほとんど停止してます。今年、去年一昨年3年間の活動は、参考程度にしかならない。それはもう活動ができないということで、活動をしないようにということで、私会長名で、通達を出してますし、それは教育委員会サイドと、それから府の指導もあり全部そういうことをしてますので、そこらのところの参考になる数字かどうかっていうこともはっきり見ていただくのと、それからここスタートして、4、5、6、7月に3ヶ月動いてるわけですけども、ここの情報が必要じゃないかなというふうに、私は思っていて、陸上競技私やってますけども、それからまたバレーとかいろいろと聞くんですけど、やっぱり数が戻ってきてるんですよ、活動してるので。

そういうところの部分の数字をはっきりつかまえた上で、この参加率等々を設定していただくのは、やっぱりこれから活動の域をしっかりと見ていただく中で、いろんな環境だとか、いろんなことを整えていただく上でも、大事な数字だと思いますので、そういうふうにしていただくのがいいと思うんです。

たださっきも言いましたように、繰り返しますけどもその数字をしっかり掘んでいただくべく、ここ2年ほど3年ほどは参考値しかありませんので、そういう数字が来るっていうことを見ていただいて、参考になるかどうかっていうところも合わせて、見ていただくというのが正しいと思います。青少年スポーツ協会の方からのコメントということでご了承ください。

<小谷会長>

ありがとうございます。先ほどの中で、児童生徒参加率は、今年のですか。

<事務局>

令和4年度ということで、わかるのが年度末になります。

<小谷会長>

今年の方はまだですか。

<事務局>

アンケートをとれば、今年の方は出てきます。大丈夫です。

<委員>

令和4年度のこの35%というのは、多分、意味がない。

<小谷会長>

活動できてなくても参加率の方で出してもらってことですね。

<小谷会長>

2、4の追加については、特に皆さん意見はないでしょうか。はい、ないということで。他にいろいろと意見出してもらって、この機会ですので。思ったことを出してもらって、次に活かしたいと思いますのでよろしくお願いします。

<松本教育長>

いずれにしても2番4番については次回数値目標を決める上での、この単発の4年ではなく、前の数値とかをしっかりと出した上で議論していただいた上で、適切な目標数値を出していくということをお願いしたいと思います。

<委員>

私の理解が違っていたら、ちょっと申し訳ないんですけど、この青少年の、今のスポーツ教室やっておられるんですけども、そこの部分と、実際、子どもたちというか、学校でのスポーツのクラブ活動も合わせた形で考えられる方が、このライフステージに応じた動きというように感じるんですけども、学校のクラブ活動と今のスポーツ教室とは別物になっているんですね。だから、あくまでそのスポーツ教室の人を増やすだけではなしに、学校のクラブ活動でしっかりと毎日活動されている部分も、一定の把握をしてそれも加える

方が現実的な実際の数字になるような気がするんです。

#### <委員>

スポーツ協会はスポーツ協会の活動としてとらえて、そして仕分けするべきだと思います。それはなぜかという、働き方改革とかいろんなことで、窮屈になってるところも見えますし、そういったところの変化っていうことをしっかりとらえるべきだと思うので、するならそういうふうにししないと足し算しては駄目だと私は思います。

#### <事務局>

すみません。今のご意見について、また関連のご意見いただけたらと思うんですけども、中学校の部活動については、あえてここには入れなかったんですけど、それは、当面はまずは土日からということなんですけども、中学校の部活動の地域移行っていうのが今進められようとしてまして、それが令和5年から7年が移行期間というか推進期間みたいなことになってまして、今後、もしかしたら土日だけなんで、いきなり平日の中学校の部活動が地域に移行するということはないと思うんですけども、そういったちょっと転換期というか、検討期に入るんで、ちょっとこの目標数値を置くのかどうかかなと思ったんですけども、いやいや平日は学校の部活動がおそらく残るということであれば、それも目標に設定してもいいんじゃないかというご意見であれば、それは設定が可能かなというふうに思いますので、もしその辺りご意見がありましたらいただければと思います。

#### <委員>

今次長がおっしゃった通り、その地域に移行していくというのが、実はスポーツ推進委員の中でもこの数年間大きなテーマになっていまして、それがもうすぐそうやってきた時にどう動いていくかという話は、常々してるようなところなんですけども、なかなか現実的な話が出てないような現状なんです。それはちょっと余談なんですけど、今次長がおっしゃったところで、目標の数字というところまでは必要ないかもしれませんが、把握というところでは絶対必要だと思っておりますので、ちょっと加えさせてもらいます。

#### <小谷会長>

把握の方は中学校の方でできているんで、目標数値としてどうするかという面ですね、載せると言うか、理解してもらえるか。

#### <委員>

目標数値にはいらないと思うんで、一応報告書の中では、クラブの数値は必要だと思います。



<委員>

このスポーツ推進計画のデータとして、中学校の活動って載ってるんですよ。これは平成29年5月現在ということで出てますけども、こういうデータというのは有意義だということであるなら、今の現実はどうなのかっていうことは、先生方おられると思いますし、各学校がどういう状況なのかということ、すぐとらえることはできると思うし、その変化がどうなってくるかって言ったら、先ほど青少年スポーツ協会の活動の状態も言いましたけども、同じようにトレンドで見れば、どう推移してきたのかってことはわかると思いますから、それはさかのぼって先生方にお問い合わせできるんじゃないかなと、それが情報として必要だということであれば、そうされたらいいというふうに思いますけど。

<小谷会長>

今言われたような5ページの中学校の運動状況ということで、ここを見れば、そこで示してるということですね。

<委員>

生徒の活動の状況が変化しているかもわからないし、学校の実情というのは。それと反対になぜ青少年スポーツ協会がどのようになっているかってところの情報が取れるということなんです。

<小谷会長>

重複というか、中学校のスポーツと、こちらに入ってる中学生もいるということですね。

<事務局>

ありがとうございます。今のご意見については、中学校の部活動の推移っていうのはわかるようにまとめて、次の計画には載せたいと思いますし、今のご意見を勘案させていただくと、目標には置かなくてもいいけども、今みたいな形で把握してわかるようにさせてもらいたいと思います。

<委員>

今回追加の2のスポーツ競技力の向上の京丹後市総合スポーツ大会の参加者数というのが今回上がってくるんですけど、スポーツ協会ができてこの京丹後市総合スポーツ大会という名称が変わったということだと思うんですけど、以前から総体があったと思うんですけど、その時には入れないで、今回から入ってるっていうのが、ちょっと意味がわからないんですけども。

それよりもそのスポーツ競技力の向上っていう、基本目標の中で先ほど松本教育長さんがおっしゃったように、青少年も含めて一般成人も含めて、例えば全国大会にどれだけの選手が出れるかとか、そういう明確な目標の方がいいかなと、単純に一般の我々が見ていても、すごいなというような目線で見れるので、ただ、入賞者が6競技であったり、参加者数が令和4年度実績で1,304人あって、それを例えばクリアして、どう競技力の向上に繋がったのかなというのが見えてこないんです。

だからそういうような目線で私はしたほうがいいのではないかと考えていますし、それと合わせて、4のスポーツ観光のまちづくりで、スポーツイベント参加者数っていうのがあるんですけど、イベント参加者が増えたから、スポーツ観光のまちづくりが進んできたというようなことにも繋がらないと。むしろ逆に観光交流でいろんな入り込み客が入ってくることによって、観光に繋がってくると思うので、そういった数字が取れるかどうかはちょっと別問題として、そういう視点で物事を考えたほうがいいのではないかなというのが私の意見です。以上です。

#### <小谷会長>

はい、ありがとうございます。今の京丹後市総合スポーツ大会の参加者数より、いかに全国大会等に入賞できたかというか、その実績の部分がよい。例えばスポーツの観光まちづくりの参加者数じゃなくて、例えばどういうふうなやり方をやったら。

#### <委員>

観光まちづくりなんで、どれだけ人が来てくれたかということにも繋がってくるような気がします。例えばスポーツイベントを誘致するじゃないですか。それによっていろんな人が、来られる。それによって、お金が落ちるということを目指してるんだろうと思うんですけど、そうなってくると、そういうことを、どういう形で、数字が上げられるのかちょっとわかりませんが、そういう視点でしたほうがいいのかなと私は思っています。

私は4スポーツの競技力の向上についても、例とすれば、私の場合は、区民が全国大会に出場したら、横断幕をかけるというようなことをしているんですけど、京丹後市の中でどれだけ全国大会レベルに派遣するような人たちが出てくるのかということの目線の方が単純でよくわからないなと思います。

#### <事務局>

ありがとうございます。まず、総合スポーツ大会の数のことですが、ちょっと今回これを加えたのは、スポーツ競技力の向上という、川口さんの言われるように、その上を目指す、レベルの高いところを目指していくということで全国大会出場、わかりやすいですね、確かに。それも一つの目標になると思います。加えた方がいいというご意見であれば、それも検討をもちろんしたらいいと思いますし、スポーツ大会を入れましたの

は、そういった高みを目指すのも、もちろん大事なんですけども、一人一人の市民の皆さんのスポーツ競技力を向上させる、競技スポーツにもっと取り組んでいただいて、日頃から取り組んでいただいて、こういった大会に出させていただくことが、底辺といいますか市民の皆さんの、多くの市民の競技力の向上に繋がるんじゃないかなということで、このスポーツ大会は、今度やり方も変えられるということなんで、これを挙げてはどうかと、ちょっと別の入賞競技だとか全国大会だとかいうと少し視点を変えた目標を持ってもいいんじゃないかなというふうなことで設定しました。

これのご意見も、もちろんいただけたらいいと思いますし、先ほど川口さんご提案があったところについても採用すべきかどうか、今日決めていただければありがたいと思います。

#### <小谷会長>

先ほどの意見は、3の部分の入賞者数とか、こういう競技力のレベルアップの部分かなと思います。

#### <委員>

再三にわたって申し訳ないですが、私も今川口さんの言われる通りで、この部分はやっぱり付け加えるべきじゃないかなと、指標として見るべきじゃないかなというふうに思っています。それは青少年スポーツ協会の教室として、やはり府下大会に行く、近畿大会に全国大会に行くっていうふうに、育成の中に、これは普及活動の中の事もあるんですけども、体力促進、それから精神力云々というのもあるんですけども、そういう指標としてはやはり育っていく選手っていうのが、また小学校から中学、中学から高校、高校から大学、大学から社会人、最後はシニアの大会がありますが、そういったところまでもずっと見るべきじゃないかなと。そういうところの大括りをした中で、そういう選手がどう変化していくのかっていうことが、成果として見れるんじゃないかなというふうに思いますから、川口さんが言われるように、そうした方が一部見やすいんじゃないかなというふうに私は思います。

それからもう一つ、4番目のところの観光のまちづくりっていうことでどんと出てるんですけど、これスポーツの推進計画なので、むしろスポーツイベントにどれだけ参加されるのかっていう活動されるのかっていうことの方が、生涯スポーツだとか、地域スポーツだとかっていうことを考えると、そちらの方が大勢の方が参加してほしいということになるので、そういったことを見るべきで、その一つの活動として、観光でやるスポーツの競技だとかいろんなことが出てくるのかなというふうに思っていて、ちょっとこのところは今日議論する話なのかどうかわかりませんが、ちょっと私もなんか人数は当然必要なんですけど、ちょっと違うのかなっていう。その前のスポーツの観光まちづくりと、スポーツ推進計画っていうところの部分のまちづくりにはなるんでしょうけど、そこらはもう

少し考えたほうがいいのかなんていうぼやっとしたことですが、思っています。

<事務局>

すみません。ご意見をいただいています。ありがとうございます。この4スポーツ観光のまちづくりで、スポーツイベント参加者数が8,164となっておりますが、これは、市外からの参加が多いイベントを積み上げております。

例えばウルトラマラソンですとか、関西学生対抗駅伝競走大会ですとか、SUPの大会、カヌーマラソンの大会いわゆるその全国大会となるようなものを積み上げておるということで、いわゆる外からの観光的に入ってきていただいて競技していただいて、地域が活性化するというようなところの指標というふうに考えて、設定をしていたものでございます。ちょっと補足をさせていただきました。

<委員>

すみません。今の4番のスポーツ観光ですね。観光というのは、地元で市以外から出てきて、金を落とすだということが観光でしたら、例えば、今、うちの名前言うたら悪いですが、サッカールの大会をいろいろと子どもたちがやっているじゃないですか、もう何十年も。これ全部お金落ちてるんですよ。これを外してしゃべったら、こちらは何か考えているんだということになりますね。

<事務局>

報告をし忘れました。網野カップも入れております。

<委員>

網野カップ以外でも、網野スポーツクラブのあれとして、何千人、これ8,000何人なんて、こんなものではないですよ、これを入れたら。ほんまに入っているんですか、サッカールの大会の数字が。

<事務局>

はい、網野カップとして入れております。

<委員>

入ってたらもっともっとなると思われるが。

<事務局>

網野カップで、4,476人と。

<委員>

そうでしょう。そんな一番大事な、半分以上がサッカーで占めてるようなことを。

<事務局>

大変申し訳ございません。

<委員>

100キロのウルトラマラソン、大学駅伝って、何を言ってますか。

<事務局>

はい、一番多いのは網野カップです。

<委員>

うちはスポーツクラブで、今体協でしゃべろうと思ってますけども、それはありませんね。いらんこと言いました。ごめんなさい。

だから、観光のことで、市外から観光で力をいれるのは、これはいいことだと思います。その数字というものは、きちっとやっぱりこうやってうたっている以上は把握してもらわないと困るという思いがしますけども。

<事務局>

はい、しっかりと把握をさせていただきたいと思いますし、失礼いたしました。ありがとうございます。

<小谷会長>

ありがとうございます。いろいろ意見出していただいて、時間の方がちょっと気になるんで、後からまた全体で出してもらおうということで、②施策体系について説明をお願いします。

<事務局>

今のこの資料3の中で、ご意見をいくつかいただいております。

このスポーツ競技力の向上のところの、この数値目標としまして、追加させていただいたらいかなところでご意見いただきました、この全国大会ですとか世界大会への出場の数というのを、指標に入れさせていただくということで、ちょっと次回の会議に目標数値を提案させてもらおうということでよろしいでしょうか。

<小谷会長>

ありがとうございます。地域では、大宮の方では横断幕を上げるということからも、やっぱり激励していくのは大事だと思いますし、やっぱり町が活性化するという部分では、ものすごい大事なことですし、今、皆さんの意見の中で、この全国大会の目標数値入れたほうが良いというような意見の方が多かったように思うんですけど、またそれは考えていただいていただきたいと思います。ちょっと時間とりましたので、ありがとうございます。

#### <事務局>

##### ②施策体系について

- ・京丹後市スポーツ推進計画 施策体系対比表（資料4）

～事務局説明～

#### <小谷会長>

説明が終わりました。それでは、意見をいただきたいと思うんですけど、全体からではなくて、ライフステージに応じたスポーツ施策の推進ということで1の方から、ご質問ありましたら、お願いしたいと思います。

#### <委員>

(4) 身近にスポーツを親しむ環境づくりの中の②スポーツ団体の活動の充実というところなんですけども、この中で、先ほども競技力の向上の中で、引野次長がスポーツ人口の底辺を拡大するんだという意見をおっしゃってまさしく僕もそう思うんですけども、この今現在、スポーツ協会ができたことによって、市の体育協会がなくなって、支部がなくなったんですね。今まで支部がやっておられた大会だとか、駅伝だとか、マラソンのようなもの大宮の例なんですけども、そういうことができなくなって、さあどうしようかということで、大宮では、今仮称なんですけども、大宮スポーツ振興会という組織を立ち上げようということで、区長会とも協議を重ねて、今までの支部よりも組織をスリム化して、設立をして活動していこうという動きが今あるんですけども、それは他の町でも同じ課題があるんかなというふうにちょっとと思いますが、ただ、そのスポーツ振興会は、今度の法人には加盟はしないという方針のようです。ということは、ここには上がってこないという組織ができてくるということなんですけども、やっぱりそういうところの、どういふのか地域の市民的な体育振興というものも、やっぱり組織を強化するだとか支援するだとか、そういうことも必要ではないかなというふうに思っています。

とすると、一つは障害者の関係で、パラスポーツの関係は、全国大会でよくテレビなんかで見るとは思うんですけど、市内でそういうのが行われたというのがあまり記憶になくて、何か前に車椅子の競技が何かイベント的にあったのかな。なんか庁舎の周りをグルグル回るような大会があったと思いますが、そういうようなことが何かちょっと記憶にあるぐらいで、あまりこの障害者のスポーツ活動というのが、目に見えてこないというのがあります

ので、ここらはもう少し力を入れたほうがいいのかなあという気がいたします。以上です。

<小谷会長>

ありがとうございます。地域スポーツについては、府の方も含めて重要だということで、予算は取ってあるんで、どういう形で、今までの各支部が進めるかということで、今事務局とも相談しているところです。

例えば、間人の場合、いつも夏の野球ですけど、野球の方もやりたいということで相談に来て、もう自分たちで企画運営して予算もつけてやれるような形で、駅伝もそうやってきていますので、またその形を相談しながらちょっとやっていきたいというようなことで進めております。どうなるかわかりませんが、今年1年でいい形ができるかどうかかわかりませんが、地域スポーツにして、スポーツは大事なことで、そのことは考えていきたいと思っております。よろしいですかね。

<委員>

今のスポーツ協会として、予算は組んでますので、大いに使ってください。

<委員>

でも。加入をしない。

<委員>

加入しなかったら、予算は出せませんよ。

<委員>

だからそこなんですよ。

<委員>

問題はそこですわ。

<会長>

会費以上に予算が出るようになっています。そこで相談していただければと思います。

<委員>

市のスポーツ協会としては、とりあえず新しくなった状態で、競技団体も含め、今大宮さんが言われる通り、何かをやりたいんだったらやれる方向で、予算は予算化をしてありますので、会費を払わんなんと言われても、会費を払っても、そのままそっくり返すんだ

から払ったことになってないんです。プラス競技をしたらその分の予算をつけてありますので、大いに利用してもらったらいいんです。いやそこです。言いたくない時には言わないので、それが困るんですよ。

会費のことばかり言って。会費はいただきますが、そのままもらったら、そのまま返すんです。返します、全部。500円会費をいただきますが、500円分全部返します。それで、活動の資金にしてください。そのお金は個人に返るか。団体に返るかはその競技で考えてもらわないといけないですけども。

そして、大宮の振興会が何をしたいかを言ったら、その度に最高3つぐらいの競技については、補助金として我々は予算を組んでますので、大いに使ってくださいな。

変なことを思わんと。区長会でそうやって話が出ているということは、区長さん方にもそういう相談がいつてるはずなんだよね。いつてるから予算化しようということでしょ。ということはそこまで知ってくださいな。我々は嘘ついとるわけじゃないだから。大宮の役員さんに聞いてください。予算は、予算化はしています。

<委員>

ちなみに、そのことは、他の町は知っていますか。

<委員>

全部知ってます。網野は知ってます。よそも支部長を通して全部言ってありますので、今小谷会長が言われたように丹後の場合も、盆野球をしたいと。したいだったら予算は組んでますので、それを利用することを事務局だとかそういう人に相談をして予算をもらってください。たくさんはないですけど、それなりの予算を組んでいますので、大いに利用してください。ぜひ。ただし、会費はいただきます。その代わりに、会費をもらったまま全部返します。もらったことにしないと登録の人数がわからないので、理解してください。もらいつ放しじゃないです。そのまんま返して、余分に行事をした分について、全部ではないですけども、なんぼかの補助はさせていただくように予算化はしています。そういうふうに理解してください。という立場です。

<小谷会長>

すみません。また詳しいことは、スポーツ協会の事務局に、また相談に行ってください。

<委員>

2点ちょっと確認というか私の思うところをちょっと話をさせてもらいます。

(1) の③女性が楽しめる体力づくりのところなんですけども、実際、スポーツ推進委員で、ニュースポーツ教室だとか、ノルディックウォーキング等々やっているんですけど



も、実は参加者の大半が女性なんです。そういうこともありますので、女性がという言葉をあえて入れる必要もないんじゃないかなと思ったりもしますし、今の時代ですので、というところをちょっと感じます。

仮に作るとしましたら、家族で楽しめるだとか、そのような形であったらどうかなと思っております。

それと(4)、下の方です(4)の①の新たに入った運動やスポーツをしない人への取り組みのところなんですけども、何となく言葉が悪いなというような感じがしているんですけど、これははしない人が、前の原稿のところでしたら、見るスポーツ、スポーツを見て楽しむということを変えて、違う表現をしてあるのかどうかはちょっとわかんないんですけども、この運動やスポーツをしない人をいかに運動してもらおうかという話でしたら、私は一番上の(1)の①だとか②のところ、①でしたら、スポーツを楽しみながら培う健康体力づくりだとか、②のスポーツによる自己の健康管理というような、そちらの方が似つかわしいんじゃないかなというような感じがしております。以上。

#### <事務局>

先ほど委員からのお話の中で言いますと、今回、運動やスポーツをしない人への取り組みというところの思惑としては、おっしゃっていただいた通り、スポーツをされない方、運動されにくい方に、いかにスポーツに取り組んでいただけるか、健康につなげていただけるかということの意味合いで書かせてもらっておりますので、確かに、この(1)の①の方、こちらに入れる方がいいかなと思っております、はい。そういう意味合いで書かせてもらってございました。ありがとうございます。

#### <小谷会長>

他にありませんでしょうか。はい、どうぞ。

#### <委員>

1つ確認させていただきたいところがあって、生涯スポーツをする場合に、例えば今スポーツ協会に入って活動する人とそうではなくて、地域の活動の中で、一緒に活動しながら体を動かすっていうことがあると思うんですけども、先ほど川口さんが言われた大宮の振興会はちょっとこっち置いといて、そういう親しみながらやるっていうところに、一つの活動の団体がいると思うんですね。

例えば区がその代わりをしたりとか自治会がしたりとか、いろんなことがあると思うんですけども、そことの関連する項目っていうのはどこを読めばいいのかなというふうに思っていて。地域、地域って出てくるんですけど、そこはどういうふうに読んだらいいのかな、読みとったらいいいのかなっていう。これは、全部出てくるとこの地区は全部そういうふうな活動の中に含まれるというふうに認識すればいいのか、そのところがまとめられ

る上で、どういうふうを考えられたのかっていうのが、ちょっとわからないので教えていただきたいなと思って、今お話をさせていただきました。

例えば、公民館活動として一緒にするとか、そういうところは、どこどこを読み取ればいいのかなっていう。

<事務局>

はい、すみません。地域でのスポーツっていうのは大切なものだということで、地域という言葉は結構入れておりますし、あと入れるところで言いますと、やっぱり1.ライフステージに応じたスポーツ施策の推進の中の(1)番の、①になるなあというふうに思っております。

地域でのそういったスポーツを取り組んでおられるグループですとか団体さんっていうものの把握というのも、ちょっと必要かなというふうに思っております。どのくらい行われてるかというか。

はい、そうですね。やっぱり(1)の1のところ、地域のことも入れさせていただくのがいいかなというふうに思っております。

<松本教育長>

スポーツの観点はやや言葉としては、弱い。言われるように、全部を網羅するにはね。

<小谷会長>

やっぱり、そこら大事なことだと思いますので、また検討して

<委員>

検討していただいて、何かうまい言葉じりを入れてもらって、本当に腹落ちするように、公民館活動と連携するようなことだとかあると思うので、そこを何か差し込んでいただきたいなというふうに思いますけど、はい。

<事務局>

ありがとうございます。ちょっと検討といいますか、考えさせていただきます。

<小谷会長>

他に、子どものスポーツの機会充実とかいうことであるんですけど、ご意見とかあったらお願いします。

<委員>

いっぱいありすぎて、どれをしゃべろうかっていう感じになるんですけど、今その地域

のスポーツの話になりましたので、私は網野町なんですけれども、今年、秋にある運動会、この数年開催されてない地域の運動会ですけど、網野南小校区、網野北小校区に関しての情報だけですけれども、今年も完全中止みたいだという話を聞いております。

小学校との連携した地元の人たちに参加していただく、結構そのスポーツを普段しない人たちが出てくれないかと言われて、一生懸命断って、それでも出なくちゃいけない、頑張るって出るという。これをよそから来たものから見ると、すごくすごく一生懸命やっこられていたのになくしてしまうのか。そして、それが面白いなと思って見てきた私として、今現時点で小学生の子どもがおりまして、それを我が子は見れないんだなど。これこそ本当に老若男女全員参加型の地域の大事なイベントだったのになと思って、私がここにいる機会をいただいているので、どんなふうに推進していく流れの中で、町の行政、行政って言ったら大げさなんですけれども、こういうところにおられる方どう考えられるんだろうかと思っている今日この頃です。

あと、今年、さっき一番最初に資料の最初の方で、小学校のプールの実施の話が出ましたけれども、去年、この3年間開催できなかった、去年も水不足で開催できなかった。子どもの授業のプール3回ぐらいだったんです。授業で3回ぐらいだったんですね。

今年は、その倍以上の回数の機会を与えていただいておりますし、夏休みの自由プールのために、保護者は、救命救急の講習まで受けて心の準備までしましたのに、網野北小学校は、何かプールの施設の故障だそうで、完全中止になったんです。

こういう機会がとにかく残念だということが言いたいだけなんですけれども、何とかして、子どもたちがスポーツの機会、いろんな自分がやってないスポーツに触れる機会がどんどん減少していつてる推進室と関係ない残念な状況もあるんですけれども、聞いていただきたいなと思いました。

あと、私は中学校と高等学校の体操競技、器械体操ですけどもそれに関わってきております。地域の連携、ライフステージの応じたスポーツ施策の推進、子どものスポーツ機会の充実、学校体育との連携の部分ですけども、近隣に体操教室などほとんどない状況の中で、中学校の部活動の土日の地域移行の件ですけども、できないじゃないというふうに率直に思っております。やっぱり指導者がかなり不足しておりますし、学校の現場で指導できるものがほぼ少ない、本当に少なくなっている中で、この検討・推進というのって、本当にできない状況、他のスポーツでもそういうスポーツあるとは思うんですけども、何とかして行くためにも私の力ってあんまり足りないんですよ。1人ちょっとできますよって言っても、できないことってありますので、どんなふうに働きかけていただけるのかなというふうには、期待ばかりでは悪いんですけども、思っております。

まだまだいっぱいあるんですけど時間とりすぎて、この辺で。

<小谷会長>

ありがとうございます。はい、また話す機会をいっぱい作ります。

<委員>

今いろんな意見が出てますけども、何か全体的に昔から入らせてもらってますけど、調査、調査をするんですけど、何かもう少し何か優先順位をつけて、実績というか形を出すような形にしたいなというような気がしまして。

アンケート、アンケートはいいんですけども、どこに本当に市として力入れたいか、本来ですとスポーツしたい方、そして、何か施設を無料で貸した時は、利用者数が多かったみたいに出ていて、本当に厳しいと思うんですけど、やっぱりお金だと思うんですね、物事は。

まず第1は、頑張っている方々のために、まずは電球1つでも、そういう施設をまず何とかしないと、さっきのプールもそうですけど、やっぱりそういうの我々民間でどうしようもないところなんで申し訳ないですけど、本当にスポーツってこれもう大前提書いてあるんで、スポーツは、本当に子どもたちの健全育成もそうですし、そういうところがあるんで本当にこれは市としてになってくるので、これは厳しいですが教育長に言いたいんですけど、市として本当にどれだけ予算をつけていただけるか。で、お金がないから、もしかしたらこのメンバーが集まっていて知恵を出そうというところでやっておられて、本当に各少年教室の方々は本当にボランティアでやっているんで、僕はそこ何とかして欲しいのは、前々から思っていたんですけど、申し訳ないですけどもう少し予算を頑張りたいなというところだけですね。そこがまず第1じゃないかなと思っております。すみません。以上です。

<小谷会長>

ありがとうございます。いろいろと意見をだしていただきました。1と言いましたけど1、2、3、4全体で、意見がありましたら、お願いします。まだ意見を言われていない方、意見がありましたらお願いします。

<委員>

目標数値っていう部分でいうと、なかなか具体的に全市民、全小中高の中で、具体的な数値を出していくっていうのは非常に難しいと思うんですが、出した後にどのように取り組んでいくかっていうことが大事だと思うので、あまりその出すまでの部分を長引かせるよりは、出した後にどう取り組んでいくのかっていうことの方が、何か大事なんじゃないかなというふうに思っています。以上です。

<小谷会長>

ありがとうございます。もう意見、手を挙げているんですけど、まだ言われていない委員さんお願いします。

#### <委員>

はい、失礼します。私、中学校体育連盟の会長ということでここに来させていただいてまして、また私住んでるのが宮津市で、京丹後市に久しぶりに帰ってきたという状況ですので、こちらの地域のこのスポーツの動きがまだまだ把握できてないところで発言するのは大変申し訳ないんですけども、今私がこう聞かせていただいて、私の立場での発言でのごとでいきますと、やっぱり子どもたちを、今後どういう形で生涯スポーツに持っていくべきかなというところを考えながらずっと聞かせていただいてました。

先ほどからあります学校部活動が今後地域にどう変わっていくか、また今子どもたちは学校に来て何を楽しんでいるかっていったら部活動なんです。

勉強はいやだけど部活があるから学校に来るとかっていうふうにスポーツに関わる子どもたちがたくさんいまして、けども地域移行がなされていくという背景がある中で、どういう形で子どもたちが地域へスムーズに移行して、そして地域の皆様がどのように子どもたちを受け入れていただけるか、でも地元の皆様もちろん職業を持っておられますので、じゃあどういう方に受け入れてもらって。ある方としゃべってる時には、「先生、地元のわしらも仕事があるんだ」言うて、なかなか忙しいっていうところもあったり、子どもに関わりたいけどやっぱり仕事があるんだということで、お互い仕事を抱えてる大人ということで、そこをどうつなぐかっていうことも考えると、ちょっと答えが出ません。

ですので、この会でいろんなお話聞かせていただいて、私も中学校の体育連盟会長ということで、また力になりたいなと思っていますので、今後ともよろしく願います。

#### <小谷会長>

ありがとうございます。小体連のほうではどうですか。

#### <委員>

4番のスポーツによる地域の活性化まちづくりのところで、この文書どうこうじゃなくて少し発言をさせてもらおうと、私、小学校体育連盟で出させてもらってます。勤務校は久美浜小学校なんですけど、カヌー艇庫が歩いてすぐですので、この度クラブ活動で9月と10月と推進室の田中屋敷さんに来ていただいて、活動することができました。本当に地のりを生かした活動を子どもたちに、子どもたちが自主的に選んだクラブですので、それでしかも地のりを活かしたということで、すごく子ども達が楽しみにしてまして、本来45分の授業なんですけど、その時は60分ぐらい時間を費やして参加させてもらおうと思っています。

そんなふうにして何かこう、久美浜のよさとかその地元のよさを子どもたちが知って将来帰ってきたいなという子どもたちになってもらいたいなということで感謝しています。

それから今久美浜湾一周駅伝の方で、私、久美浜陸上クラブの一員として、この間教育委員会さんにも参加してもらいながら、何とか私たちはしたいなということで、先日もし

曜日も集まってたんですけど、何とかやれる方向で、今道筋ができて、またこちらの方もご支援ください。以上です。

<小谷会長>

はい、ありがとうございます。地のりを活かした子ども達のこのスポーツ活動というのは、ものすごい大事だと思いますので、また気づかれたことはこの場でまた出してもらって、それが活かせるようになったらと思います。ありがとうございます。

<委員>

度々で申し訳ないですけども、私ちょっと、2のスポーツ競技力の向上というところの指導者の育成確保というところで、もう一度ちょっと言葉というか、流れの中で考えていただきたいんですけども、ここに書いてある指導力の向上ということで及びっていうことでくくってあるんですけども、この研修会や講習会を開きますっていうことを言ってるんですけど、全部我々が、青少年スポーツ協会のコーチは、公認コーチとして即しなれば、今後、コーチっていうことにはなかなか出ない。また、特に大きな大会に行くっていうことになるそれがもう大前提であって、そういうことを言われます。そうすると、やはり派遣しないといけないんですね。実費です。数万円かかります。宿泊でやらなきゃならないコーチもあります。これをどうするのかって実費でやるんですかっていう話があります。

やっぱりそういうところの部分は、やっぱり一定額の補助だとかっていうことがあってしかりだと思いますけども、今ずばり言って青少年スポーツ協会はそのところもしっかりとカバーできていません。

こういうふうに書いていただくのはありがたいんですけども、もっと具体的に派遣も入れていただきたいというのが私の思いです。そうしないと来ていただけでは、一定のことを理解するだけの話で、1時間程度で終わってしまったり、そんな話で終わるだけの話では済みませんので、そのことをご理解いただきたいということと、それからもう1つは、レクリエーション設備の充実ということで、先ほど何人かの方がおっしゃいましたけども、前回の時に陸上競技場と、久美浜カヌー競技場をリニューアルしていただいたんですね。

やはりここは成果が出てるんです。大きな大会ができるし、選手が実際に学ばれることも、言えば、世界基準というか日本全国基準っていうか、そういうレベルでの競技ができるし、そこに子どもたちや、携わる人たちがそこで経験できるということは成果として出ています。

ただし、この結果をずっとまとめられた方にはそのことがしっかり書いてありません。具体的な内容が書いてありません。成果として書いてありませんので、ぜひそれは書いていただいて、さらに例えば、以前ありました体育館、武道場もそうでしょうし、先ほど体

操の競技なんかも多分もう、ある学校のところで細々やっておられるっていうようなふうには私は見てるんですけども、それは各学校が、全部体操のクラブ活動をやめてますので、そういったところの充実なんかも全然できてないというふうに思いますから、そういったところは、小手先の対応ではなくて、子どもたちを育てていこうと思うのなら、そういった大きな施設をどんと構えるとかそういうことも市としてやっていかないといかんのじゃないかなと。

小さなものがいっぱいあって活動しやすいというのも1つの利点かも知れませんが、そうでなく大きなものを立てて、世界基準だとか先ほど言いましたように、本当にメジャーの、マイナーじゃなくてメジャーのそういったイベントも組みながらできるようなことを市としてもやっていくんだということを何か掲げるべきじゃないかなというふうに思います。これはもう結果として出てる事実から言ってますので、ぜひそうしていただけることを望みます。どこかに組み入れていただけるとありがたいです。はい、以上です。

#### <小谷会長>

はい、ありがとうございます。他にご意見、質問ありませんか。教育とスポーツはお金だそうですね。実際に必要なことだと思います。また、いろんな意見いただきまして、ありがとうございました。

見直しについても、本当に具体的にこう変わったとか、結果こうよくなったというところ辺も含めて、またここで意見も出していただいて、よりよい形でまた次に進めるようになったらと思います。

本当に、ご意見をたくさん出していただきありがとうございます。

それではもう、事務局の方にお渡しさせていただいてよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

#### <事務局>

はい、ありがとうございます。多く意見をいただきました。いただいた意見を反映させまして、なるべく早く事務局でまとめさせてもらったものをご確認もいただける時間をつくれたらなというふうに思っております。

今回は、先ほども申しました通り、ご意見いただいたものに基づきながら、数値目標も決めてもらったり、あとはこの計画書の冊子の体裁としては、この形で確認がしていただけるようなところに進めていけたらと思っておりますけれども、まずは、事務局の方で本日の意見をまとめさせていただいて、提示させてもらいたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

それでは、ちょっと長く時間をかけてしまいまして申し訳ございませんでしたが、本日は大変お忙しい中でした。長く時間を取らせていただきました。ご意見いただきましたものをきちんと活かしていきたいというふうに思っております。

<委員>

この審議会ですが、結構、時間がかかるので、開始時間を7時いうことでいけませんか。

<小谷会長>

皆様、どうですか。

学校の先生どうですかね。無理言いますけど、何とかありますか。

<委員>

7時から9時、もちろん9時まで。8時半なんて言わないですよ。

早く終わったら早く終われます。

<委員>

もちろんそうです。

<委員>

今日みたいにこれだけたくさん意見が出たら、当然9時に、もうすぐ会長が注意して。こんなの10時までしたっておかしくない。

<事務局>

今7時開始はいかがかというちょっとご意見もありましたが、皆さんどうでしょうか。次回を7時スタートでご案内をさせていただくということでさせていただきたいと思えます。その他、皆さんの中からございましたら、お願いします。

<委員>

チャレンジデーの結果について、防災行政無線でのお知らせがなかったように思いますが、いかがでしたでしょうか。

<事務局>

当日は、9時に最終結果を集計しますので終わってから全国的な集計があつて、それが来るのがもう夜中近くになるので、次の日にさせていただいておりました。

広報誌でもお知らせしておりますが、確かに情報発信という意味で、しっかりとしておかないと、やっぱり伝えてないとやってないとは同じというようなこともあると思いますので、この情報発信のところはいろんな媒体を使ってやっていきたいと思えます。

市のSNSもありますので、そういったところにも載せられるようなことにしたいと思えます。最近、市のラインが確かに増えてきておまして、見ていただけてるなという



のが思いますので、福祉に負けないようにしたいと思います。

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。そうしましたら、これで閉会とさせていただきますが、閉会のご挨拶、副会長の板倉様よろしく願いいたします。

## 5 閉会あいさつ

<副会長>

はい、皆さん大変お疲れ様でした。そして、たくさんのご意見を頂戴いたしました。これ一つ一つ整理をして、どういうふうな計画にしていくなのかっていうのはまた次回、いろいろな資料をそろえていただきまして、しっかりと議論をしていきたいというふうに思っております。

また今日参加いたしまして、いつぐらいか忘れてしまいましたが、議員さんが、事業の仕分けをされており、2番は駄目なんですかっておっしゃって、予算をかなり減らして、それ以降、オリンピックとかスポーツが駄目になったというのを少しだけ思い出しました。そういうことを考えると、やはりそれぞれ本当に現場で頑張ってくださってる皆さんがいらっしやって、今日もそれで真剣にご意見もいただいて、よくしていこう。2番じゃ駄目なんじゃないかなと、やっぱりお金も必要なんじゃないかなということは本当に思いました。

そのお金の使い道としてどうがいいのかということも、やはりこの会でしっかりと議論をして、次の計画を作っていくということになるのかなというふうに、今日は参加をしております、そのように感じております。

また次回は、7時から早く終われば8時半ということのようですので、またご案内ありましたら、皆さんご参加いただきまして、活発なご意見がいただけたらというふうに思います。

では、本日はこれで閉会をさせていただきたいと思います。お疲れ様でございました。